

体験グローバル 「エフピコ株式会社」講演のアンケート結果

2015年9月25日7時間目に4年生を対象に、エフピコ株式会社より松尾和則さんを講師として本校にお招きし講演をしていただきました。

松尾和則さんからは「循環型環境に向けた企業としての取り組み」をテーマに、トレーを製造する企業としての環境対策や、日本初のトレーの回収・リサイクル事業の展開についてお話や、障がい者雇用といった、企業にとっての「社会貢献」の在り方についてお話ししていただきました。

講演後の生徒のアンケートをまとめると以下のようになりました。



質問項目

1. 今日の講演は興味・関心をもって聞くことができましたか。
2. 今日の講演は新しい考え方や視点が学べるものでしたか。



自由記述 今回の講演から学んだこと、考えたことを具体的に記述してください。

- トレーの生産や量産についてエフピコという会社が壁にぶつかった時に、その壁を企業努力で乗り越えていったところにエフピコがここまで発展できた要因があるのだと思いました。他の会社に流されることもなく、自分たちの技術を信じて価格設定をしたり、障がい者を積極的に採用したりしている点はオリジナルがあるとも感じました。そして講演して下さった松尾さんのエフピコに対する強い思いを感じることができました。
- 食品トレーは今やスーパーに行くとき必ず使われているが、そこにたどり着くまで環境への配慮を忘れずに地道に努力されてきた結果であることを強く思った。そして、障がい者雇用に関しても雇う側も、雇われる側もプラスになるようなシステムを構築されていて、エフピコの企業戦略も感じることができました。
- エフピコが日本の文化を利用して成長してきたことがよくわかりました。日本の食材保存の伝統や、食べ物に対して「見た目」にもこだわる繊細さをトレーに応用して様々なトレーを開発してきたエフピコの考え方はすごいと思いました。食材は人類が存在し続ける限り必要になるのだから、それに関わり努力を続けているエフピコは仕事として存在し続けると思いました。
- ビジネスには複数の考え方があることが再認識できる講演でした。確かに日本は人口減少によって「頭打ち」だとよく言われるが、「課題先進国」として世界から注目を浴びているという一面もある市場である。海外展開にせよ、国内展開にせよリスクはゼロではない。その場その場で求められている役割（企業的にも、社会的にも）というものを自覚してビジネスしていくことが大切だということを学ぶことができた。
- 作ったら作りっぱなしにするのではなく、リサイクルまでする技術や、トレーの循環システムを構築をした努力はすごいと思った。また、トレーの会社を立ち上げた頃にはまだコンビニもスーパーもまだまだ普及していない時期のはずなのに、今のような社会になることを予見していたかのように事業を進めてきた面もすごいと思った。

○エフピコの挑戦的な姿勢は見習わなければいけないと思いました。トレーのリサイクルには苦勞がたくさんあることもわかりました。地域の人々の協力の上でトレーのリサイクルができていいることも知り、私も環境のことをもっと考えて行動をしていかなければいけないと思いました。

○成功した理由の一つとして挙げられた「現場主義」が印象に残りました。社員全員が現場へ出向き、改善点を見つけてきたという地道な努力に感動しました。また、今までは「安くすれば売れる」と思っていました。しかし、そうではなく適正な価格で安定して商品を市場や消費者に提供していくことの大切さも学ぶことができました。



○企業のあるべき姿勢を学びました。一つは同業他社がしていないことに挑戦する「開拓心」です。色つきのトレーなど、人々から批判される可能性の高いものに挑戦することはとても勇気がいることだと思います。批判に屈することなく挑み続け、なおかつ説明責任を果たし続けてきた姿勢に感動しました。そしてもう一つが「向上心」です。コンビニやスーパーが増え、何もなくても需要は増えていく状態だけれど、「現場主義」の姿勢を貫かれているのは「向上心」やゆるぎない信念を持っているからだと思います。自分もこれらの姿勢を忘れないようにしたいと思いました。

○「ほかの分野の会社とは違い、頑張れば頑張るほど環境にいい」という話が印象に残りました。どんどん環境問題が日常の一部になってきている現在で、こんな風に自信を持って話される会社が地元にあることは嬉しいし、誇らしく思いました。また、リサイクルは企業の努力だけでは成り立たず、地域（消費者）の協力もあって成り立つことがよく分かったし、それができる日本人というのも世界から見ると誇れることなんだと知ってさらに嬉しく思いました。

○「環境に配慮すること」は企業にとって、「売り上げを伸ばす」とは正反対の関係にあると思っていました。でも、講演を聞いて一時的には相反することもあるけれど基礎を固めることができれば、両立できる可能性があることが分かった。そしてエフピコはリサイクル事業の中で世の中や、地域にすごく貢献していることがよくわかりました。

○エフピコさんは企業としての姿勢が一貫していることが講演を聞いて感じました。「やろう」と決めたことはとことん突き詰めているし、異業種には一切手を出してこなかったところからそんなことを感じました。自分の普段の生活でもこんな姿勢を大切にしたいと思いました。現実的に全部をやろうとするのは不可能なのだから、だったらやるべきことを取捨選択して自分にとって大事なことをとことん突き詰めた方が絶対後悔はしないと思いました。そのために自分にとって何が大切なのか的確に見極められる自分にもなりたいたいと思いました。

○エコトレーで環境に貢献しているというだけでもすごいことなのに、障がい者も積極的に雇用して社会にも貢献していることがさらにすごいと思いました。また、工場であるのに従業員がマスクをしなくても作業ができるような労働環境にまで配慮されている姿から、社員を大事にする会社はそれが会社の成長にきつとつながっているんだと思いました。

○周りがあまりやりたがらないことを「私たちがやらなければならない」という責任感がすごいと思いました。利益を上げることが会社の目的の大部分を占めるとは思いますがエフピコは様々な面で社会貢献もしていて素晴らしい会社だと思いました。一見負担にしか見えないようなことでも、努力次第で大きなチャンスにできる可能性もあるのだということも講演を聞いてすごく思いました。

○企業の発展には「技」や「特許」だけでなく、「環境について考える」ということもこれからの社会では大切な要素なんだと思いました。大量生産・大量消費のように捨てるために作ったり、無理して海外に売り込んだりしなくても環境の視点から事業を展開することで利益も上げられるし、企業として成長できることがわかりました。

○エフピコはグローバルに活動できる技術を持っているけれど、日本国内でローカルに活動している会社なんだと思いました。地元の人たちの協力を受けてリサイクルすることが地球の環境を守るグローバルな結果につながっているのですごくいいと思いました。最初からグローバルを掲げなくても、地元で一つ一つ活動することが世界につながっていくのかもしれないと思いました。